

会 報

No.51 (1995年5月)

目 次

◆新会長あいさつ	1
◆第9期第1回評議員会報告	1
◆新役員名簿	2
◆第8期評議員会将来計画委員会報告	2
◆1994年度会計収支決算報告	3
◆1994年度会計監査報告	4
◆第18回(1995年)日本分子生物学会年会のお知らせ(その2)	5
◆学会費(年度会費)納入について	13
◆日本分子生物学会への入会申込みの手順	13
◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について	13
◆第11回国際生物学賞候補者の推薦について	16
◆財団法人 持田記念医学薬学振興財団 研究助成金・留学補助金について	16
◆第12回持田記念学術賞候補者の推薦について	17
◆第27回内藤記念科学振興賞受賞候補者の推薦について	18
◆第27回内藤記念海外学者招へい助成金の推薦について	18
◆東レ科学技术賞および東レ科学技术研究助成の候補者の推薦について	19
◆“さきがけ研究21”研究者募集について	20
◆“ノーベル賞の国スウェーデンからの若い分子生物学研究者支援制度”の お知らせ	20
◆各種シンポジウムのお知らせ	21
○計測自動制御学会関西支部講習会	21
○第68回日本生化学会大会	21
○第4回日本バイオイメーシング学会学術集会	21
○第5回広島がんセミナー国際シンポジウム	22
○第6回生体高分子結晶成長国際会議	22
○第5回アンチセンスシンポジウム	22
◆日本学術会議だより (No. 36)	23

日 本 分 子 生 物 学 会

(THE MOLECULAR BIOLOGY SOCIETY OF JAPAN)

◆新会長あいさつ

第9期会長に選出されて重い責任を感じています。日本分子生物学会も会員数7,000名を超え、そこから生み出される研究の成果は、個々のレベルで見ても、総体として見ても、今や生命研究の中できわめて重要な役割を果たす時代になりました。それを通して社会に与えるインパクトも今や大きなものです。21世紀に向かうわが国の生命研究の一翼を担うこの研究領域にかかる期待は一層大きくなるでしょう。しかも、研究の進歩は日々に速まり、それをとりまく環境は急速に変容しつつあります。このような状況の中で学会の果たすべき役割は多様化し、重くなっています。こうした中、いろいろな問題に有限の力で対処しなければならないわけですが、私は日本分子生物学会の最大の使命はわが国の分子生物学研究者が研究をやりやすい条件と環境を整えることだと考えています。そこで、ことにあたるにはこの物差しを使いながら諸兄姉の御意見を反映していきたいと思えます。提案をどしどし寄せて下さいますようお願いいたします。

松原 謙一

◆日本分子生物学会 第9期 第1回評議員会報告

日時 1995年4月19日(水) 13:30~16:30

会場 大阪 千里中央・千里ライフサイエンスセンタービル・20階会議室

出席者 饗場弘二、大石道夫、岡崎恒子、小川智子、小川英行、近藤寿人、品川日出夫、志村令郎、杉浦昌弘、鈴木義昭、関口睦夫、中西重忠、中村研三、松原謙一、三浦謹一郎、山本正幸、吉川 寛

欠席者 榑 佳之、本庶 佑、村松正実

オブザーバー 石浜 明、富澤純一、柳田充弘、由良 隆(以上 旧評議員)
小笠原直毅、釣本敏樹(以上 旧幹事)

議 事

1. 第9期役員を選出について

- 1) 新会長の選任：規約ののっとり評議員の互選により、松原謙一氏を第9期(1995年4月1日から1997年3月31日まで)会長として選出した。
- 2) 副議長の選出：三浦謹一郎氏を副議長として選出した。
- 3) 幹事の委嘱：松原会長より庶務幹事として近藤寿人氏、会計幹事として大久保公策氏に委嘱したいという提案があり、了承された。編集幹事、集会幹事の人選は会長に一任された。
- 4) 会計監査の選出：投票により、釣本敏樹、杉野明雄の両氏を会計監査として選出した。
- 5) 選考委員の選出：選考方法について協議し、評議員会の互選により3氏を選出し、残る2名は選出された委員の研究分野を考慮し会長が指名することにした。それに基づき投票により、中西重忠、山本正幸、小川智子の3氏を選考委員として選出した。
- 6) 将来計画委員の委嘱：第9期も将来計画委員会を設置することにし、山本正幸氏を委員長に委嘱した。将来計画委員の人選は山本氏に一任した。

2. 当面の活動計画について

- 1) Genes to Cells 刊行について報告を受け協議を行い、国内で1,000部以上の定期購読を目指して、そのための具体的方策を検討することにした。
- 2) 第20回年会(1997年)を、京都で開催することにし、本庶 佑氏に年会長をお願いすることを決定した。
- 3) 第8期の将来計画委員会の活動について、石浜委員長より報告を受け、了承した。

◆新役員名簿

会 長

松原 謙一 (阪大・細胞生体工学セ)

評議員 (50音順)

饗場 弘二 (名大・理)	鈴木 義昭 (基生研)
大石 道夫 (東大・分生研)	関口 睦夫 (九大・生体防御研)
岡崎 恒子 (名大・理)	中西 重忠 (京大・医)
小川 智子 (国立遺伝研)	中村 研三 (名大・農)
小川 英行 (阪大・理)	本庶 佑 (京大・医)
榊 佳之 (東大・医科研)	松原 謙一 (阪大・細胞生体工学セ)
品川日出夫 (阪大・微研)	三浦謹一郎 (学習院大・生命分子研)
志村 令郎 (京大・理)	村松 正実 (埼玉医大・医)
杉浦 昌弘 (名大・遺伝子実験施設)	山本 正幸 (東大・理)

各幹事

庶務幹事 近藤 寿人 (阪大・細胞生体工学セ)
会計幹事 大久保公策 (阪大・細胞生体工学セ)
集会幹事 石浜 明 (国立遺伝研)、谷口 維紹 (東大・医)
編集幹事 吉川 寛 (奈良先端大・バイオ)

会計監査

釣本 敏樹 (奈良先端大・バイオ)、杉野 明雄 (阪大・微研)

選考委員

小川 智子 (国立遺伝研)、勝木 元也 (九大・生体防御研)、中西 重忠 (京大・医)、
中村 研三 (名大・農)、山本 正幸 (東大・理)

将来計画委員会

山本 正幸 (委員長 東大・理)、石浜 明 (国立遺伝研)、桂 勲 (国立遺伝研)、
町田 泰則 (名大・理)、山本 雅 (東大・医科研)、吉川 寛 (奈良先端大・バイオ)

◆日本分子生物学会 第8期 評議員会 将来計画委員会報告

1. 分子生物学は、わが国でも生命科学のあらゆる分野に浸透した共通の研究方法となってきた。そのことを背景として、学会員も7,000名を越え、年会参加者が5,000名に近づいた。しかし、体制化した分子生物学のなかから、国際水準の研究や、新しい学問が生まれてきているであろうか。新しい学問を生み出す研究者は育っているであろうか。こうした時代背景に相応しい学会運営はなされているであろうか。こうした問題を検討するために、本委員会が設置された。
2. 委員会は、わが国の分子生物学をめぐる状況と、学会の現状をまず正しく認識することが必要と考え、学会員対象のアンケート調査を提案したが、評議員会の賛同が得られなかった。したがって、今期活動でも、現状認識はそれ程深まらなかった。現状分析の方法については、今後の課題として残された。しかし、以下の課題については、緊急に検討が必要であり、継続的に調査検討し、長期的な方針を提案することが必要であるとの認識に到達した。
 - 1) 分子生物学の研究環境、特に研究組織の現状と改革の方向 (大学改革、各省庁の拠点研究機関づくり、学術振興会特別研究員制度の変化、などへの対応)。
 - 2) 分子生物学の研究環境、特に研究費の状況と改革の方向 (文部省科研費配分方法・審査方法、各省庁のプロジェクト研究費、などへの対応)。

- 3) 分子生物学の国際協力（国際共同研究の推進・外国人研究員受入れ推進方法、国際生化学分子生物学連合への参加方法、など）。
 - 4) 分子生物学の教育、特に論理性を高めるための教育改革（実験技術の進歩による論理の低下対策、一般教育指導要領改訂・入試制度改訂をめぐる問題、「生物教育用語集」改訂、など）。
 - 5) 日本分子生物学会の運営をめぐる問題（学会連合による年会、役員選出方法、など）。
3. 将来への全体計画の提案には、正しい現状認識が欠かせない。しかし、差し当たり分子生物学の発展に有効と考えられる以下の事業を提案する。
- 1) わが国にも、本格的なポストドクトラル制度を導入する（例えば、学振特別研究員制度をPDだけにし、大学院生には奨学金を給付する）。
 - 2) 新たな研究分野の創出のために、研究対象生物を軸とした講習会を開催する（例えば、酵母、シロウジョウバエ、線虫、シロイヌナズナ、など）。
 - 3) 学会を横断する研究討論会を開催する（例えば、日本生物物理学会、日本生化学会、日本蛋白質工学会などと、「構造生物学」の新展開の討論を）。
 - 4) 年会を最も重要な研究交流の場として位置づけ、そのために新たな運営方式を導入する（例えば、国際規模の研究発表会、抄録集英文化、など）。
 - 5) 研究成果発表方法改革の一環として、“Genes to Cells” 発刊へ協力する。
4. 長期的将来計画を立案し、当面の事業を推進するために、次期評議員会でも、引続き「将来計画委員会」を設ける。

第8期 将来計画委員：石浜 明、大石道夫、松原謙一、三浦謹一郎、山本正幸 [文責・石浜 明]

◆1994年度会計収支決算報告

1994年度学会会計収支決算は以下の通りになりましたので報告いたします。

(第8期会計幹事 釣本敏樹)

1994年度日本分子生物学会収支決算書（1994年4月1日～1995年3月31日）

収入の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
学 会 費	22,550,000	25,880,732	入会金 1,016,000 正会員 19,459,500 学生会員 5,066,500 外国会員 338,732
賛 助 会 費	1,020,000	1,380,000	
広 告 収 入	2,200,000	1,364,250	
預 金 利 子	300,000	213,298	
雑 収 入	50,000	58,789	
準備金取り崩し収入	4,000,000	4,000,000	
寄 付 金 収 入	0	1,356,600	第16回年会長より
小 計	30,120,000	34,253,669	
前年度繰越金	△ 1,000,000	△ 1,098,696	
合 計	29,120,000	33,154,973	

支出の部

科 目	予 算 額	決 算 額	摘 要
事業費	8,850,000	9,613,391	
〔会報発行〕	1,800,000	1,888,491	
〔年会プログラム〕	850,000	1,524,900	第17回年会
〔年会特別講演謝金〕	200,000	200,000	〃
〔第18回年会補助〕	1,000,000	1,000,000	
〔国際誌発行支援金〕	4,000,000	5,000,000	第16回年会長よりの
〔その他の〕	1,000,000	0	寄付金 100万円を加算
評議委員会費	3,900,000	3,313,274	
〔委員会費〕	800,000	607,765	
〔選挙・名簿作製費〕	3,100,000	2,705,509	選挙関係印刷代含む
業務委託費	6,500,000	7,990,165	(財)日本学会事務センター
一般事務費	9,005,000	7,349,357	
〔用品費〕	5,000	1,390	
〔印刷費〕	300,000	329,664	
〔通信費〕	8,000,000	6,505,287	会報, 名簿, プログラム郵送料
〔庶務費〕	650,000	400,000	庶務幹事へ
〔雑費〕	50,000	113,016	
予備費	300,000	0	
小 計	28,555,000	28,266,187	
次年度繰越金	565,000	4,888,786	
合 計	29,120,000	33,154,973	

◆1994年度会計監査報告

1995年4月25日、会計帳簿、預金通帳、領収書、日本学会事務センター出納記録などの監査を行い、決算に誤りのないことを確認しました。

日本分子生物学会第8期会計監査

小 川 英 行 ㊞

品 川 日出夫 ㊞

第18回 日本分子生物学会年会 日程表 (予定)

	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19
12月6日(水)	受付	シンポジウム				ポスター発表 説明・討論			一般口頭発表			
						テクニカル セミナー						
		ポスター掲示										
展 示 会												
12月7日(木)	受付	シンポジウム				ポスター発表 説明・討論			一般口頭発表			
						テクニカル セミナー						
		ポスター掲示										
展 示 会												
12月8日(金)	受付	特別講演	総会			ポスター発表 説明・討論			一般口頭発表			
						テクニカル セミナー						
		ポスター掲示										
展 示 会												
12月9日(土)	受付	一般口頭発表				シンポジウム						
		展 示 会										

3. 申込書送付先 〒565 豊中市新千里東町1-4-2
千里ライフサイエンスセンタービル14階
学会センター関西 内
第18回日本分子生物学会年会 係
Tel: (06)873-2301 Fax: (06)873-2300

4. 発表の申込みは、綴込みの用紙（発表申込書、プログラム編成用カード、人名索引編集用カード、講演要旨、受取書、発表演題採否通知書）に必要事項を記入・印字し、講演要旨のコピー3部（B5判）を添えて、簡易書留便で上記の年会係までお送り下さい。

1) ポスター発表への申込み

それぞれの用紙（発表申込書、プログラム編成用カード、講演要旨）の「1.ポスター発表」の番号に○印をつけて、さらに「ポスター・口頭発表分類表」より演題に最も関連の深い分類を二つ選び、希望順に記入して下さい（例：I-b-1, III-a-2 など）。

2) 一般口頭発表への申込み

それぞれの用紙（発表申込書、プログラム編成用カード、講演要旨）の「2.一般口頭発表」の番号に○印をつけて、さらに「ポスター・口頭発表分類表」より演題に最も関連の深い分類を二つ選び、希望順に記入して下さい。

3) シンポジウムへの申込み

それぞれの用紙（発表申込書、プログラム編成用カード、講演要旨）の「3.シンポジウム発表」の番号に○印をつけて下さい。シンポジウム一覧表の中から演題を公募しているもの一つを選び、シンポジウム番号・タイトルを記入して下さい。ここに応募した場合には、後述のように一般口頭発表になる場合もあります。その場合に希望する分類を2)と同様に「2.一般口頭発表」の項に記入して下さい。

世話人によりすでにシンポジウム発表が決まっている会員は「3.シンポジウム発表」の項の（決）に○をつけて、同様に応募して下さい。また、非会員のスピーカーを招待している世話人は、世話人の責任で会員と同様に発表申込書、プログラム編成用カード、人名索引編集用カード、講演要旨等を作成し、7月31日までに申込んで下さい。

5. 応募演題の受取書は、申込用紙到着後に代表者の本年度会費納入を確認の上、返送されます。発表申込演題の採否は、演題採否通知書により、申込者にお知らせ致します。ポスター発表と一般口頭発表の採否は、プログラム委員会が決定します。シンポジウム発表の採否は各シンポジウムの世話人が決定します。個々の発表の日時と場所については、プログラムでお知らせします。

[ご希望の発表形式が不採用になった場合]

一般口頭発表に応募して不採用になった場合は原則としてポスター発表をして頂きます。シンポジウムに応募して不採用になった場合は、プログラム委員会はできるだけ一般口頭発表の可能性を検討しますが、ポスター発表になる場合もあります。なお、応募する発表形式以外の発表を希望されない場合には、「プログラム編成用カード」の通信欄にその旨明記して下さい。

6. 発表の代表者の本年度会費納入を確認するために、申込書の指定の欄に、会費払込みの際に郵便局等が発行する領収書のコピーを貼付して下さい。非会員でシンポジウム発表される方は、貼付位置に×印をつけて下さい。また、年会参加費は無料です。

なお、入会手続き中の方や、領収書を紛失された方は同欄にその旨を記入して下さい。また、入会申込みをされる方には、入会申込書と会員カードを提出された後に、日本学会事務センター（東京）より会費の請求書が送付されますのでご注意ください。会費未納の場合には、発表申込みを受理できませんのでご注意ください。

7. 発表申込用紙記入上の注意

1) 用紙は切り離さずに郵送して下さい。

- 2) *の項には記入しないで下さい。
- 3) 講演要旨はオフセット印刷しますので、ワードプロセッサ(ただし、出来るだけレーザープリンタをご使用下さい)またはタイプライターで直接印書するか、また印書したものをていねいに糊付けして下さい。代表発表者の前の左肩には○印をつけて下さい。所属は略称を用いて下さい(外国の所属は国名を明記して下さい)。また、鮮明なコピー3部(B5判)を添付して下さい。
- 4) 昨年同様、演題、発表者氏名、所属を日本語と英語で並記して下さい。
- 5) ポスター、一般口頭発表の要旨は、日本語、英語のどちらでも結構です。シンポジウム講演要旨は、発表に使用する言語に一致させて下さい。なお、要旨集の縮小率は約58%ですので図や表にご注意下さい。
- 6) 「講演要旨のプログラム編集用の部分」に従ってプログラムを編成・印刷しますので、このカードの「演題」、「氏名」、「所属」は、発表要旨に記載したもの(日本語の部分)と同じに印書するかそのコピーを貼付して下さい。なお、同一グループが一連の発表をし、関連演題に順序をつけたい場合には、その旨を「プログラム編成用カード」の通信欄に記入して下さい。
- 7) 人名索引編集用カードには、演者および連名の方全てについて1枠に1名ずつ記入して下さい。なお、外国人の方は、カタカナでの表記を避け、アルファベットでファミリーネーム(カンマ)、ファーストネーム、ミドルネーム(イニシャル)の順で記入して下さい。また、大文字と小文字についても明瞭に使い分けて下さい。
- 8) 発表申込書には、「演題」「氏名・所属」とともに、代表者1名の氏名、住所、電話番号、Fax番号を記入して下さい。
- 9) ポスター・口頭発表分類表には材料による分類も掲載してありますが、これはあくまで参考にするだけで、本年度も研究内容中心の分類を採用します。
- 10) 受取書のはがきには「演題」、発表演題採否通知書のはがきには申込書と同様、希望する発表形式に○印をつけ、希望分類と「演題」を記入して下さい。裏面には宛名を記入して、50円切手を貼って下さい。切手がない場合には返送しません。

参加申込みおよび参加費

1. 年会参加費は、前納(締切11月2日)の場合は一般会員 5,000円、学生会員 4,000円です。11月6日以降の送金から当日の受付までは、それぞれ 6,000円、5,000円、非会員 7,000円となりますのでご注意ください。

参加費には、講演要旨集1部の代金が含まれています。なお、講演要旨集のみご希望の方には、会員 3,000円(ただし、会員1人につき1部のみ)、非会員 5,000円でお頒けします。

2. 昨年と同様今年も懇親会は行いません。最終日を除き、3時からビール等を用意しますので、ご利用下さい。
3. 年会参加費、講演要旨集代金の払込みには、同封の振替用紙をご使用下さい。

同封の用紙を使用されない場合には必ず通信欄に、第18回日本分子生物学会年会と記入し、送金の内訳、住所・氏名をご記入の上、下記の郵便振替口座へご送金下さい。

〈送金口座〉

口座番号 00920 1-22357

加入者名 (財)日本学会事務センター大阪事務所

(学会費の振替用紙とは口座が異なりますのでご注意ください。)

なお、今年より、経費節減のために、講演要旨集と参加章のそれぞれをできるだけまとめて発送したいと思います。周囲に複数の申込者がある場合は、参加費の納入に際してできるだけ以下のようなご協力をお願い致します。

- 1) 講演要旨集と参加章を一括して発送できるグループ(例えば研究室単位等)を作り、連絡責任者を

決めて下さい。連絡責任者は、年会参加費等を集め一括して振替用紙で送金して下さい。

- 2) 連絡責任者は、送金と同時に、別途、連絡責任者の住所（電話、Fax 番号も記入）と送金の明細（各送金者の氏名（フリガナ）、所属、内訳）を明記して、下記の年会事務局宛に文書でお送り下さい（特に様式はありません）。

〒565 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

学会センター関西 内

第18回日本分子生物学会年会 係

4. 11月2日までに参加費を払込まれた方には、年会前（11月下旬）に連絡責任者に講演要旨集（グループ発送）と参加章を送付します。11月6日以降に払込まれた場合には、年会会場にて講演要旨集をお渡しすることになりますのでご注意ください。
5. 参加費等払込みの領収書は、原則として発行しませんのでご了承下さい。念のため、郵便局が発行する領収書は、講演要旨集や参加章の到着まで保管しておいて下さい。
6. 年会期間中の宿泊、JR 券、航空券等のご案内
宿泊については、会報に綴込んだ「宿泊のご案内」をご利用下さい。交通手段についてご希望がある方は、近畿日本ツーリスト(株)名古屋支店（〒460 名古屋市中区錦3-5-30、Tel: (052)971-5164、Fax: (052)971-5155）にご連絡下さい。
7. 第18回年会に関する問合先
学会センター関西 内
第18回日本分子生物学会年会 係
Tel: (06)873-2301 Fax: (06)873-2300

第18回 ポスター・口頭発表分類表 (Classification of poster and oral sessions)

(I) 分子構造 (Molecular structures)

- | | |
|---------------------------------|------------------------------------|
| (a) 遺伝子 (Genes) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) ゲノム (Genomes) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 蛋白質 (Proteins) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) 核酸 (Nucleic acids) | (4) その他 (Others) |
| (e) 糖 (Carbohydrates) | |
| (f) 脂質 (Lipids) | |
| (g) 分子集合 (Molecular assemblies) | |
| (h) その他 (Others) | |

(II) 分子機能 (Molecular functions)

- | | |
|--|------------------------------------|
| (a) 複製 (Replication) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 組換え、修復
(Recombination and repair) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 転写 (Transcription) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) RNA プロセッシング・修飾・分解
(RNA processing, modifications and degradation) | (4) その他 (Others) |
| (e) 翻訳 (Translation) | |
| (f) 蛋白質のプロセッシング・修飾・分解
(Protein processing, modifications and degradation) | |
| (g) 輸送と局在化 (Transport and localization) | |
| (h) その他 (Others) | |

(III) 細胞の構造 (Cellular structures)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) 染色体および核構造
(Chromosomes and nuclear structures) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 生体膜 (Membranes) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) 細胞質および細胞質構造
(Cytoplasm and cytoplasmic structures) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) オルガネラ (Organelles) | (4) その他 (Others) |
| (e) その他 (Others) | |

(IV) 細胞の機能 (Cellular functions)

- | | |
|---|------------------------------------|
| (a) エネルギー (Bioenergetics) | (1) 真核生物 (Eukaryotes) |
| (b) 運動 (Cell motility) | (2) 原核生物 (Prokaryotes) |
| (c) シグナル伝達 (Signal transduction) | (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages) |
| (d) 細胞分裂・細胞周期
(Cell division and cell cycle) | (4) その他 (Others) |
| (e) ストレス応答 (Stress response) | |
| (f) 細胞形質転換 (Transformation) | |
| (g) アポトーシス (Apoptosis) | |
| (h) その他 (Others) | |

(V) 高次生命現象 (Integrative and specialized cellular events)

- (a) 細胞間認識 (Cell-cell interactions and recognition)
 - (b) 発生および分化 (Development and differentiation)
 - (c) 免疫系 (Immune systems)
 - (d) 神経系 (Nervous systems)
 - (e) 老化 (Aging)
 - (f) 癌 (Cancer)
 - (g) 遺伝病 (Genetic diseases)
 - (h) その他 (Others)
- (1) 真核生物 (Eukaryotes)
 - (2) 原核生物 (Prokaryotes)
 - (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages)
 - (4) その他 (Others)

(VI) 分子生物学の方法・技術 (Methods and techniques)

- (a) DNA 工学 (DNA technology)
 - (b) RNA 工学 (RNA technology)
 - (c) 蛋白質工学 (Protein technology)
 - (d) 細胞工学 (Cell technology)
 - (e) トランスジェニック生物 (Transgenic animals and plants)
 - (f) 病因解析および診断 (Diagnosis)
 - (g) その他 (Others)
- (1) 真核生物 (Eukaryotes)
 - (2) 原核生物 (Prokaryotes)
 - (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages)
 - (4) その他 (Others)

(VII) 生命情報科学・理論 (Bioinformatics and theories)

- (a) 分子進化 (Molecular evolution)
 - (b) その他 (Others)
- (1) 真核生物 (Eukaryotes)
 - (2) 原核生物 (Prokaryotes)
 - (3) ウイルス、ファージ (Viruses and phages)
 - (4) その他 (Others)

第18回 日本分子生物学会年会シンポジウム

<u>番号</u>	<u>シンポジウムタイトル</u>	<u>世話人</u>	<u>人数公募</u>
1	突然変異の制御機構	関口 睦夫、真木 寿治	なし
2	DNA トランスアクションの分子生物学	花岡 文雄、堀内 嵩	なし
3	遺伝的組換えの分子機構	小川 智子、小川 英行	4~5
4	動く DNA：多様性と染色体操作への展望	堀 寛、町田千代子	なし
5	mRNA の動態と多元的制御プログラム	中村 義一、野本 明男	5~6
6	染色体の不活性化	向井 常博、佐野 浩	6
7	RNA の構造から機能へ	横山 茂之、渡辺 公綱	4~5
8	進化的手法による機能性高分子の創成	井上 丹、郷 通子	なし
9	情報生物学の展開	松原 謙一、金久 實	なし
10	ゲノムの高速探索技術の新展開	林崎 良英、伊藤 隆司	1~2
11	ゲノムバイオロジー：医学・生物学における新展開	榊 佳之、中村 祐輔	なし
12	膜輸送体の分子解剖	土屋 友房、植田 和光	なし
13	分子シャペロン	永田 和宏、矢原 一郎	なし
14	細胞の増殖と高次機能の形成制御	新井 賢一、小池 克郎	若干名
15	細胞周期 M 期研究における新たな視点	柳田 充弘	なし
16	生殖細胞と減数分裂の分子生物学	山本 正幸、長濱 嘉孝	2~3
17	Ras タンパク質とシグナル伝達	玉野井冬彦、松本 邦弘	なし
18	膜-核間情報伝達様式の多様性と特異性	本庶 佑、西田 育巧	1~2
19	細胞死の分子生物学：分子機構解明の現状とこれから	口野 嘉幸、長田 重一	なし
20	原核生物の分子生物学—最近の進展と再編成への展望	小椋 光、松山 伸一	4~5
21	動物ボディプラン決定の分子的基礎	相沢 慎一、黒岩 厚	5~6
22	動物の初期発生における形態形成の分子機構	浅島 誠、上野 直人	なし
23	モデル生物系を用いた神経系の発生・分化の解析	岡野 栄之、野田 哲生	なし
24	高等植物の形態形成	青山 卓史、後藤 弘爾	なし
25	植物メリステムの構成と維持機構の分子生物学	岡田 清孝、松岡 信	なし
26	生物時計機構への分子生物学的アプローチ	石田直理雄、近藤 孝男	1
27	染色体 DNA 複製開始と細胞周期チェックポイント コントロール	杉野 明雄	なし
28	核・染色体の構造からとらえた細胞核機能	広瀬 進、升本 寛	なし
29	発ガンの分子機構	秋山 徹、山本 雅	なし
30	真核生物の特異的機能発現を支配する転写調節の分子機構	藤井 義明、山本 雅之	なし

◆学会費（年度会費）納入についてのお願い

1. 1995年度分および未納分の学会費を3月中旬にお送りした請求書（郵便振替用紙）により下記の通り納入して下さい。なお、学生会費を納入される方は、細則第2条により、在学証明書を日本学会事務センター（東京）へ提出して下さい。

正会員学会費 4,500円

（ただし、在学証明書を提出したときは 3,000円）

学会費の納入に際しては年会参加費と混同しないようにお願いします。

2. 年会の発表申込みには、学会費納入控（または領収書）のコピーを添付することが必要です。発表を希望される方は、学会費納入控（または領収書）を保管しておいて下さい。

◆日本分子生物学会への入会申込みの手順

日本分子生物学会に入会を希望される方は、書面または電話により下記宛お申込み下さい。所定の書式をお送りいたします。なお、年会の演題締切りの時期（7月～8月）は入会者が多く混雑いたしますので、早目の入会手続きをお勧めします。

〒113 東京都文京区本駒込 5-16-9 学会センター C21

（財）日本学会事務センター・会員業務

日本分子生物学会 係

Tel : (03) 5814-5810 Fax : (03) 5814-5825

◆学術賞および研究助成金の本学会推薦について

例年、本学会に推薦依頼あるいは案内のある学術賞・研究助成の概要を表にまとめてあります。そのうち応募にあたり学会等の推薦が必要なものについての、本学会からの推薦は本学会選考委員会の審査に従って行います。本学会への推薦依頼の手続きは次の通りです。

1. 提出資料：

- ① 本申請に必要な書類（オリジナルおよび募集要項に記載されている部数のコピー）
- ② 本学会の5名の選考委員用に上記申請書類のコピー5部（論文は不要）
- ③ 申込み受付確認のための葉書（返信用の宛名を記入しておいて下さい）

2. 提出期限：

本申請の1カ月前までに、〒565 吹田市山田丘1-3、大阪大学細胞生体工学センター、日本分子生物学会 庶務幹事 近藤寿人（Fax (06)-877-1738）まで郵送して下さい。

3. 注 意：

本申請の1カ月前までという提出期限後に受取った場合、選考委員用のコピー5部、返信用葉書等の資料が不足していた場合、選考の対象とならない場合があります。

なお、本年度の推薦依頼あるいは案内は会報に掲載いたしますが、その受取時期・応募期限と会報発行日の関係で、一部のものは掲載できない場合があります。応募希望の方は、別表を参考に直接助成先へ確認をお願いします。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
国際生物学賞	国際生物学賞委員会 ☎ (03) 3263-1721 〒102 千代田区麹町5-3-1 ヤマトビル 日本学術振興会内	1件 (1件)	1995年 6月30日	賞状、賞牌 1,000万円	生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術進歩に大きな貢献をした研究者(本年度、授賞分野は細胞生物学)。
第13回研究助成 第12回国内および 海外留学補助金 第12回持田記念学 術賞	(財)持田記念医学薬学振興 財団 ☎ (03) 3358-7211 〒160 新宿区四谷1-7	・総額 4,200万円 ・総額 500万円 ・2件以内 (1件)	1995年 6月30日 1995年 6月30日 1995年 7月31日	・1件 100万円 ・1件 50万円 ・1件 300万円	生命科学・薬物科学・情報科学・生体工学と医療応用の研究の分野における研究で、顕著な功績があり、かつ新進気鋭の研究者。
第22回日産学術研 究助成 第3回日産科学賞	(財)日産科学振興財団 ☎ (03) 3543-5597 〒104 中央区銀座6-17-2	①一般研究 10件程度 (2件) ②奨励研究 25件程度 (枠なし) ・2件 (1件)	1995年* 8月31日	①1,000万円まで ②200万円まで ・賞状、メダル 500万円	自然科学分野で、それぞれの研究の成果が学術の進歩、発展に貢献するところが大きいと思われるもの、新しい研究分野の開拓に貢献するもので、45歳以下の研究者および研究グループ。 自然科学分野で、学術文化の向上発展に大きな貢献をした満50才未満の研究者。
上 原 賞	(財)上原記念生命科学財団 ☎ (03) 3985-3500 〒171 豊島区高田3-25-3	2件以内 (1件)	1995年* 9月9日	金牌 1,000万円	生命科学の栄養学、薬学、基礎および臨床医学、社会医学で顕著な業績をあげ、引き続き活躍中の研究者。
井 上 学 術 賞	(財)井上科学振興財団 ☎ (03) 3477-2738 〒150 渋谷区猿楽町11-20	5件以内 (1件)	1995年* 9月20日	1件賞状、メダル 200万円	自然科学の基礎的研究者で特に顕著な業績をあげた者(ただし締切日現在満50歳未満)。
木原記念財団学術 賞	(財)木原記念横浜生命科学 振興財団 ☎ (045) 721-0751 〒232 横浜市南区六ッ川 3-122-20	1件 (1件)	1995年* 9月30日	賞状、記念牌 200万円	最近において生命科学の分野で優れた独創的研究を行っている国内の研究者で、原則として50才以下の者。
東レ科学技術賞 東レ科学技術研究 助成	(財)東レ科学振興会 ☎ (0473) 50-6103 〒279 浦安市美浜1-8-1 東レビル	2件前後 (2件) 総額 1億3,000万円 10件程度 (2件)	1995年 10月9日 1995年 10月7日	1件 賞状、金メダル 500万円 特に定めず最大 3,000万円まで	学術上の業績顕著な者、学術上重要な発見をした者、重要な発明により効果が大い者、技術上の重要問題を解決し貢献が大い者。 基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる、独創的、萌芽的な研究を活発に行っている若手研究者。
第27回科学振興賞 第27回海外学者招 聘助成金	(財)内藤記念科学振興財団 ☎ (03) 3813-3005 〒113 文京区本郷3-42-6 NKDビル8階	1件 (1件) 前後期各総額 500万円 (1件)	1995年 11月20日 1995年 7月20日 11月20日	正賞、金メダル 300万円 1件 50万円まで	人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なにかんずく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに取り組み、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。 同上のテーマに取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者。

名 称	連 絡 先	件 数	締 切	助成内容等	概 要
ブレインサイエンス財団研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒104 中央区八重洲 2-6-20	・ 8 件 (1 件)	1995年* 11月30日	・ 1 件 100万円	ブレインサイエンス研究分野(脳神経に関する自然科学的研究をすべて含む研究領域)において独創的で国際的評価に値する研究者。なるべく若い者、単独または共同研究も可。
塚原仲晃記念賞		・ 1 件 (1 件)		・ 1 件 200万円	
研 究 助 成	(財)長瀬科学技術振興財団 ☎ (06) 535-2117 〒550 大阪市西区新町 1-1-17	・ 10数件	1995年* 12月15日	・ 1 件 250万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究活動を行う研究者または研究機関。
国 際 交 流 助 成		・ 10件程度	1995年* 12月15日	・ 1 件 50万円程度	生化学および有機化学等の分野において研究調査を行う研究者の海外派遣または招聘(除く留学)。
海外派遣研究助成	(財)ブレインサイエンス振興財団 ☎ (03) 3273-2565 〒104 中央区八重洲 2-6-20	・ 総額 150万円 (1 件)	1996年* 1月17日	・ 1 件 40万円まで	ブレインサイエンスの研究の促進を図るため、国際学会、シンポジウム等への参加、あるいは研究者の派遣を助成。
海外研究者招聘助成		・ 総額 100万円 (1 件)		・ 1 件 40万円まで	同分野において独創的テーマに意欲的に取り組んでいる外国人研究者の招聘を助成。
第 27 回 三 菱 財 団 自然科学研究助成	(財)三菱財団 ☎ (03) 3214-5754 〒100 千代田区丸の内 2-5-2	・ 総額 3 億円 30件程度	1996年* 3月3日	1 件当り 2,000万円 まで	自然科学の基礎となる独創的、かつ先駆的研究とともに、国際的発展に先導的役割を担う萌芽ともなる研究(原則として個人研究)。
新化学発展協会 1996年度研究奨励金	(社)新化学発展協会 ☎ (03) 3294-8031 〒101 千代田区神田駿河台1-5	8 課題、 各課題 1 件	1996年* 3月10日	1 件 150万円	新化学の発展に資する若手研究者(39才以下)の研究に対して、研究奨励金を交付。 研究課題有り。
山田科学振興財団 1997年度研究援助	(財)山田科学振興財団 ☎ (06) 757-3311 〒544 大阪市生野区巽西 1-8-1	10件程度 (2 件)	1996年* 3月31日	1 件当たり 300~ 700万円、総額 4,500万円	自然科学の基礎的研究に対しての研究費援助。
日本生命財団研究 助成	(財)日本生命財団 ☎ (06) 204-4012 〒541 大阪市中央区今橋 3-1-7 日本生命今橋ビル	総額 1 億円程度	1996年* 5月19日	申請金額に制限 なし	「人間活動と環境保全との調和に関する研究—自然と人間の共生への新しい道を求めて—」の趣旨に沿った研究のうち、「人間活動と自然環境との関係(人間と自然環境の共存)」関連分野で、かつ現在および将来の重要課題。

() 内は、応募に当たり学協会等からの推薦が必要な場合本学会よりの推進枠を示しています。

*は、本年度の案内を受取っておらず、昨年締切日を参考に示してあります。

◆第11回国際生物学賞候補者の推薦について

日本学術振興会国際生物学賞委員会

- 趣 旨 昭和天皇の御在位60年と長年にわたる生物学の御研究を記念するとともに生物学の奨励を図る。
- 名 称 和文名 国際生物学賞、英文名 International Prize for Biology
- 受 賞 者 生物学の研究において世界的に優れた業績を挙げ、世界の学術の進歩に大きな貢献をした研究者。原則として毎年1人とする。
- 授賞分野 授賞分野は、年度ごとに決定する。
- 選 考 国際生物学賞委員会が毎年度選定する分野における研究者について、内外の関係学術機関・団体および有識者からの推薦に基づき、国際生物学賞委員会の審査委員会が審査選考し、国際生物学賞委員会が決定する。
- 顕 彰 受賞者には、国際生物学賞（賞状、賞牌、および賞金1,000万円）を授与する。また、受賞者に対しては、賜品が下賜される。
- 授賞式 授賞式は、受賞者夫妻を招いて、毎年秋に東京で行う。なお、授賞式にあわせて国際生物学賞記念シンポジウムが開催される。
- 基 金 本賞のため、日本学術振興会に、寄付金による特別基金が設けられている。
- 第11回授賞分野 「細胞生物学 (Cell Biology)」

◆財団法人 持田記念医学薬学振興財団 第13回 (1995年度) 研究助成金, 第12回 (1995年度) 国内および海外留学補助金募集について

研究助成金募集要項

1. 助成の趣旨

- 1) 生命科学と医療応用の研究
- 2) 薬物科学と医療応用の研究
- 3) 情報科学と医療応用の研究
- 4) 生体工学と医療応用の研究

上記の研究を助成し、もってわが国の医療および国民の保健の向上に資することを目的とする。

2. 助成対象

下記の研究対象の領域に属する研究を国内において行い、所属する施設の主任教授、学部長あるいは施設長等の推薦を受けた者。

1) 生命科学と医療応用の研究

- ① バイオテクノロジーにより産生されるヒトに対して生理活性を有する物質に関する研究
- ② 免疫制御機構に関する研究 (老化、免疫低下等を含む)

2) 薬物科学と医療応用の研究

- ① 薬物設計の研究
- ② 薬物送達の研究

3) 情報科学と医療応用の研究

循環器疾患の本態解明に関する情報科学

4) 生体工学と医療応用の研究

- ① 心臓疾患の治療制御に関する研究
- ② 粒子線による診断と治療の研究

3. 研究助成金額 総額 4,200万円 1件につき 100万円とする。
4. 研究助成金交付の対象となる経費
研究に要する物品の購入費用その他研究推進に必要な費用とする。

留学補助金募集要項

1. 補助対象
上記の研究助成金の趣旨と同じ研究を行い、所属する施設の主任教授、学部長あるいは施設長等の推薦を受け、1995年4月1日より1996年3月31日の間に開始し期間1年以上の、国内および海外留学を行う者。
2. 補助金額 総額 500万円 1件につき50万円とする。
3. 補助金交付の対象となる経費 本人の渡航費および滞在費とする。
4. その他 受入機関の承諾書等の写しを添付のこと。(A4 サイズ)

研究助成金および留学補助金共通事項

1. 応募方法
所定用紙に必要事項を記入し、住所氏名を記入した採否通知返信用封筒(長4サイズ)を添えて「書留郵便」で当財団あて送付する。
2. 締 切 1995年6月30日(金)当日の消印まで有効。
3. 選考方法 選考委員会により1995年9月下旬に選考し、理事会で決定する。
4. 採否通知 1995年10月上旬に応募者と推薦者あて文書で通知する。
5. 助成金交付 1995年10月下旬に贈呈する。
6. その他
 - 1) 1992年度以降の研究助成金等贈呈者は、本年度の応募受付対象者としない。
 - 2) 応募者の年齢は満45歳未満(1950年7月1日以降に生まれた方)とする。
7. 所定用紙(申請書)請求手続きについて
申請書の区分、送付先住所、氏名、郵便番号、電話番号を記入の上、葉書でお申込み下さい。
(応募には、未記入の当年度所定用紙を複写し用いてもよい)
8. 申請書提出先および問合せ先
財団法人 持田記念医学薬学振興財団
〒160 東京都新宿区四谷 1-7
Tel : (03) 3358-7211 (内線962,963)

◆第12回(1995年度)持田記念学術賞 候補者の推薦について

(Academic Award of the Mochida Memorial Foundation)

1. 学術賞の対象
当財団は、生命科学を中心とする医学、薬学およびこれらに関連する物理学、化学、工学等の先見的、独創的研究を育成し、かつ、これらの成果を総合して医療に応用し、わが国の医療および国民の保健向上に資することを目的としておりますが、その一環として次の4項目の分野における研究で、顕著な功績があり、かつ新進気鋭の研究者に持田記念学術賞を贈呈しております。
 - 1) 生命科学と医療応用の研究
 - 2) 薬物科学と医療応用の研究
 - 3) 情報科学と医療応用の研究
 - 4) 生体工学と医療応用の研究

2. 褒賞金総額 300万円ずつ 2件以内
3. 候補推薦件数 1推薦者から1件といたします。
4. 推薦方法 別添推薦者に必要事項を記入し、当財団あて送付して下さい。
5. 締切期日 1995年7月31日(月)(当日の消印有効)
6. 選考方法 1995年9月に選考し、当財団理事会で決定いたします。
7. 褒賞金の贈呈 1995年10月

◆第27回(1995年度)内藤記念科学振興賞受賞候補者の推薦について

1. テーマおよび候補者
 - 1) 人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんづく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに取り組み、自然科学の進歩発展に顕著な功績を挙げた研究者。
 - 2) 主たる研究者は原則として単独とするが、異なる研究グループによる協同研究の場合には、連名であってもよい。この場合は、その旨を推薦書に明記していただきたい。
 - 3) 候補者の再度の推薦も差しつかえない。
2. 候補推薦件数
1推薦者から1件に限る。
3. 褒賞金額
第27回(1995年度)内藤記念科学振興賞(ほう賞)は1件とし、正賞・金メダルならびに副賞・300万円を贈呈する。
4. 推薦方法 所定(別紙)の用紙に必要事項を記入し、当財団あて送付する。
5. 推薦書締切日 1995年11月20日とする。
6. 選考方法 選考委員会を設けて、1996年1月中旬に選考し、評議員会の同意を求め理事会で決定する。
7. 受賞者決定の報告 1996年2月上旬に推薦者あて採否を報告する。
8. 褒賞の贈呈
褒賞決定者にたいしては、1996年3月上旬に内藤記念科学振興賞を贈呈する。
9. 推薦書提出先および連絡先
財団法人 内藤記念科学振興財団
〒113 東京都文京区本郷3-42-6、NKDビル8階
Tel:(03)3813-3005(直通)、Fax:(03)3811-2917

◆第27回(1995年度前期・後期)内藤記念海外学者招へい助成金の推薦について

1. テーマおよび候補者
人類の健康の増進に寄与し得る自然科学の基礎的研究、なかんづく疾病の予防と治療に関する独創的テーマに意欲的に取り組み、国際的に高い評価を得ている外国の研究者。ただし、助成金はその外国の研究者を招へいする受入れ責任者に贈呈するものとする。
2. 招へいの時期
前期……1995年10月1日～1996年6月30日の間に外国の研究者を招へいするもの。
後期……1996年4月1日～1996年12月31日の間に外国の研究者を招へいするもの。
3. 予算および助成額
 - 1) 本年度の海外学者招へい助成金の予算は前期・後期とも500万円が計上されている。
 - 2) 1件は往復の航空料金または滞在費として50万円までとする。

4. 推薦者

- 1) 総合大学の学部においては学部長、研究所においては研究所長とし、単科大学においては学長とする。大学以外の場合には、当財団の理事会が承認した研究機関の代表責任者とする。
- 2) 当財団の理事会が定めた基礎的領域の27学会の代表者とする。
- 3) 当財団の役員および評議員とする。

5. 推薦件数 前期・後期とも1推薦者から各1件に限る。

6. 推薦方法 所定の用紙に必要事項を記入し、当財団あて送付する。(その複写用紙を使用してもよい)

7. 推薦締切日 前期……1995年7月20日、後期……1995年11月20日

8. 選考方法

選考委員会を設けて1995年9月中旬、ならびに1996年1月中旬に選考し、評議員会の同意を求め、理事会で決定する。なお、同一の学会等に招へいする候補が複数申請された場合には、採択は1件以内とする。

9. 採否通知 前期は1995年10月上旬に、後期は1996年2月上旬に推薦者あて採否を報知する。

10. 助成金の交付

助成決定者に対しては、前期は1995年10月下旬より、後期は1996年2月下旬より、必要に応じて受入れ責任者に内藤記念海外学者招へい助成金を送呈する。ただし、これの贈呈式は1996年3月中旬に挙行するものとする。

11. 推薦書提出先および連絡先

財団法人 内藤記念科学振興財団

〒113 東京都文京区本郷3-42-6、NKDビル8階

Tel : (03)3813-3005 (直通)、Fax : (03)3811-2917

◆1995年度東レ科学技術賞および東レ科学技術研究助成の候補者の推薦について

1. 東レ科学技術賞 (概要)

1) 候補者の対象 貴学協会に関する分野で、下記に該当するもの

- ① 学術上の業績が顕著なもの
- ② 学術上重要な発見をしたもの
- ③ 重要な発明をして、その効果が大きいもの
- ④ 技術上重要な問題を解決して、技術の進歩に大きく貢献したもの

2) 科学技術賞 2件前後。1件につき、賞状、金メダルおよび賞金500万円

3) 候補者推薦件数 1学協会から2件以内

4) 推薦締切期日 1995年10月9日(月)必着

2. 東レ科学技術研究助成 (概要)

1) 候補者の対象 貴学協会に関する分野で国内の研究機関において基礎的な研究に従事し、今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる独創的、萌芽的研究を活発に行っている若手研究者

2) 研究助成金 総額1億3千万円。1件3千万円程度まで10件程度。

3) 候補者推薦件数 1学協会から2件以内

4) 推薦締切期日 1995年10月9日(月)必着

◆1995年度“さきがけ研究21”研究者募集について

新技術事業団は、研究者個人の独創性を活かした基礎的研究を推進するため、さきがけ研究21の1995年度採用の研究者を募集します。

1. 対 象

次の研究領域のいずれかに含まれる基礎的な、かつ、個人レベルで行える研究課題をお持ちの日本人、または日本語での面接に対応できる程度の語学力を備えた在日外国人研究者。

2. 募集研究領域

「遺伝と変化」(領域総括 豊島久真男)

「知と構成」(領域総括 鈴木良次)

「場と反応」(領域総括 吉森昭夫)

3. 採用予定人数 30名(3研究領域合計)

4. 条 件

1995年10月から3年間、新技術事業団に所属(兼任でも可)します。実質研究費は研究内容により異なりますが、3年間で1,500万~3,000万円程度です。研究実施場所は、原則として事業団が用意します。

5. 募集期間 1995年4月10日~1995年5月31日(消印有効) 詳しいことは下記までお問合せ下さい。

6. 領域事務所

- 「遺伝と変化」領域事務所 Tel:(0774) 95-5173 Fax:(0774) 95-5179
- 「知と構成」領域事務所 Tel:(03) 5473-6856 Fax:(03) 5473-6858
- 「場と反応」領域事務所 Tel:(086) 225-8736 Fax:(086) 225-8740

新技術事業団 個人研究推進室 Tel:(048) 226-5610 Fax:(048) 226-5653

◆“ノーベル賞の国スウェーデンからの若い分子生物学研究者支援制度”のお知らせ

ファルマシアバイオテックは、SCIENCE誌との協賛で、学位取得直後の優秀な若手研究者を支援するためにPharmacia Biotech & SCIENCE Prize for Young Scientists in Molecular Biologyを設けました。分子生物学分野で、最も優れた業績を挙げた若手研究者を全世界から選びます。応募者の博士号学位論文に関する英文1000単語以内のエッセイによって選考します。

1. 応募資格

1994年1月1日から12月31日の間に分子生物学分野の研究で博士号を取得した方(国籍、所属、性別不問)

2. 応募方法 以下の全書類を英文にて提出のこと

- 1) ①学位論文に関し、特に分子生物学進展への貢献度に主眼を置いて、応募者本人が書いた英文1000単語以内のエッセイ、②学位論文の要旨(ダブルスペースで4ページ以内)、論文審査委員名と所属施設、③論文指導教授による、応募者とその研究の意義に関する1ページの推薦状、④規定の応募用紙に全必要事項を記入したもの
- 2) 応募者の学位取得施設に属さない、分子生物学研究者による推薦状(研究内容に関する1)とは独立の評価、応募者名、学位取得施設名、推薦者名と応募者との関係を明記し、選考委員会に直送のこと)

◆各種シンポジウムのお知らせ

○1995年度計測自動制御学会関西支部講習会「学習の理論と応用—その現状と動向—」

1. 主催 計測自動制御学会関西支部
2. 協賛

応用物理学会、化学工学会、情報処理学会、照明学会、精密工学会、テレビジョン学会、電気学会、電子情報通信学会、日本エム・イー学会、日本機械学会、日本航空宇宙学会、日本電気計測器工業会、日本電子機械工学会、日本人間工学会（以上関西支部）、関西造船協会、高分子学会、システム制御情報学会、自動車技術会、神経回路学会、人工知能学会、センシング技術応用研究会、日本オペレーションズリサーチ学会、日本原子力学会、日本産業用ロボット工業会、日本神経科学学会、日本心理学会、日本生物物理学会、日本電気制御機器工業会、日本認知科学会、日本発生生物学会、日本ヒューマン・ロボティクス研究会、日本ファジィ学会、日本物理学会、日本分子生物学会、日本リモートセンシング学会、日本ロボット学会、バイオメカニズム学会（依頼中）、レーザー学会（順不同）

最近、知的システムを構築するための新しい考え方として、学習機能が注目されている。これは、システムに学習機能を与えることによって、多様な状況に応じた処理や判断が可能になり、システムの知的レベルを大きく向上させることができるからである。このように重要な学習についての理論と応用の現状と動向を分かりやすく説明します。奮って、ご参加下さるようお願い申し上げます。

3. 日時 1995年6月27日（火）9：20～16：50

4. 場所 ホテル アウイーナ大阪（なにわ会館）
4階 金剛（東）の間
〒548 大阪市天王寺区石ヶ辻町19-12
Tel (06) 772-1441

5. 内容
9：20～9：30 関西支部長挨拶小野敏郎（大阪府大）
9：30～11：00 多戦略学習 沼尾正行（東京工大）
11：10～12：40 強化学習法—エージェント学習への応用と展開 畷見達夫（創価大）
13：30～15：00 ファジールールによる構造学習と意図抽出 林 勲（阪南大）
15：20～16：50 石油精製プラントにおける学習の応用 谷 哲次（出光興産）

6. 定員 80名

7. 参加費

主催・協賛学会会員12,000円、会員外15,000円、学生3,000円（テキスト含）、テキストのみ4,000円（送料込）

8. 申込締切日 1995年5月31日（水）

9. 申込方法

適当な用紙に氏名、勤務先（所在地、名称、部課名、電話番号）、連絡先、所属学協会名、送金方法、送金時期を明記の上、下記の申込先へお申込み下さい。

10. 申込先 〒530 大阪市北区西天満6-8-7

電子会館1階日本電気計測器工業会内
計測自動制御学会関西支部講習会係
Tel : (06) 316-1741 Fax : (06) 316-1751

○第68回日本生化学会大会

1. 会期 1995年9月15日（金）～18日（月）

2. 場所 東北大学川内キャンパス 他

3. 講演要旨提出締切 1995年4月27日（木）

講演者は日本生化学会会員に限る。未入会者は必ず入会手続きをすること。

4. 参加登録締切 1995年7月20日（木）

5. 参加登録費〔（ ）は当日登録〕

一般6,000円（8,000円） 学生4,000円（6,000円）

6. プログラム

《特別講演演者（予定）》

Charles B. Kimmel 博士 (Univ. of Oregon, USA),
Roger D Kornberg 博士 (Stanford Univ. School of
Medicin, USA), Ronald A. Laskey 博士 (Wellcome/
CRC Inst., UK), Davor Solter 博士 (Max-Plank Inst.,
Germany)

《シンポジウムテーマ》

1. 新しいセカンドメッセンジャー cyclic ADP-ribose/
2. アレルギー性炎症—生化学的解析から制御へ—/3. イソプレノイド生化学の新局面—多様な代謝と機能/4. 核構造：クロマチンの分子細胞生物学/5. サイトカイン受容体とシグナル伝達：その多様性と重複性/6. 細胞内タンパク質輸送の分子機構/7. 細胞の増殖・分化と糖鎖情

報/8. 細胞の分化と機能発現の分子機構—転写制御を中心として/9. 植物の情報認識機構解明へのアプローチ/10. 神経発生の分子細胞生物学/11. タンパク質結晶学と構造生物学の将来/12. タンパク質のリン酸化・脱リン酸化による細胞機能の制御/13. 天然生理活性物質をツールとして用いた情報伝達分子機構の解明への新しいアプローチ/14. 中枢神経系の伝達制御機構と高次脳機能/15. プロテアーゼを介した細胞機能の調節機構—分子レベルから病態まで/16. 無脊椎動物の生体防御戦略—デフェンスマレキュルを中心として—

このほかモーニングレクチャー、イブニングレクチャー、テクニカルセミナーなどが行われる。

7. 入会申込先

〒113 文京区本郷5-25-16 石川ビル3階

(社)日本生化学会

Tel : (03) 3815-1913 Fax : (03) 3815-1934

8. 講演申込先

〒981 仙台市青葉区堤通雨宮町1-1 東北大学農学

部応用生物化学科分子生物学講座内

第68回日本生化学会大会事務局

Tel : (Fax 共用) (022) 274-1483

○第4回日本バイオイメーキング学会学術集会

1. 会期 1995年10月20日（金）、21日（土）

（お詫び：一部の機関誌、雑誌には10月19日、20日と案内がでしたが、これは誤りです。ここにお詫び致します。）

2. 場所 慶應義塾大学医学部

（〒160 東京都新宿区信濃町35）

3. 主題

- 1) 生体の動きのリアルタイムでの視覚化

- 2) 細胞内分子の動的変化、代謝・エネルギー変換の視覚化
- 3) 生体分子の物理化学的性質の解析画像
- 4) 分子のモデリングとドラッグデザイン
- 5) 細胞・組織・臓器の形態と機能を見る画像計測・画像解析法
- 6) バイオイメージングのための3次元構築と立体視
- 7) テレサイエンスとバイオイメージング
- 8) その他、生体画像処理・生体画像計測

以上に関する特別講演と一般講演を行います。一般講演を広く募集いたしますので、ふるってご応募下さい。

4. 講演申込締切：7月25日(火)
5. 講演要旨締切：9月5日(火)
6. 講演申込・参加申込方法

下記申込先へ郵便、ファックス、電話にて申込みください。郵便、ファックスの場合は講演題目、発表者、登壇者、所属を明記してください。日本バイオイメージング学会会員の方は会報にある講演申込用紙をご利用ください。参加のみの場合は当日会場にて受け付けます。

7. 参加費 (要旨集代を含む)
4,000円(会員)、2,000円(学生)、6,000円(非会員)
8. 懇親会 10月20日(金) 18:00~
9. 申込先・連絡先

〒223 神奈川県横浜市港北区日吉 3-14-1
慶應義塾大学理工学部 南谷晴之
Tel : (045)563-1141 内線 (3330, 3328)
Fax : (045)562-7625
E-mail : mnt-bmel. elec. keio. ac. jp.

○第5回広島がんセミナー国際シンポジウム「テロメラゼとがん」

日 時 1995年10月29日(日) 9:00~17:45
会 場 広島国際会議場 国際会議ホール「ヒマワリ」
(広島市中区中島町1-5、広島平和公園内)

1. Telomerase, the immortalizing enzymc
Calvin Harley (ジェロンコーポレーション、USA)
2. Structural and functional analysis of the telomeric nucleoprotein complex at human chromosome ends
Titia de Lange (ロックフェラー大、USA)
3. Studies on telomere shortening and telomerase activity in restration of cellular senescence program in immortal cells
押村 光雄 (鳥取大・細胞工学)
4. Aging and cancer: Are telomerases the connection?
Jerry W. Shay (テキサス大、USA)
5. Telomerase activity in human cells, immortalization and cancer
田原 栄俊 (広島大・総合薬学)

6. Telomere and telomerase in adult and childhood solid tumors: Do all cancers consist of immortal cells?
檜山 圭子、檜山 英三 (広島大・医)
7. Telomere and human leukemia
大屋敷純子 (東京医大・第1内科)
8. Telomerase, telomere structure and cancer
石川 冬木 (東京工大・生命理工)

総合討論：座長 Jerry W. Shay (テキサス大、USA)
井出 利憲 (広島大・総合薬学)

主 催 財団法人 広島がんセミナー
参加登録 事前登録要 参加費5000円(当日支払)
問 合 先 〒734 広島市南区霞1-2-3 広島大学医学部
第一病理 第5回広島がんセミナー事務局
田原榮一、安井 弥
Tel : (082)257-5146 Fax : (082)257-5149

○第6回生体高分子結晶成長国際会議

(The Sixth International Conference on Crystallization of Biological Macromolecules; ICCBM-6)

1. 日 時 1995年11月12日(日)~17日(金)
2. 場 所 アステールプラザ (広島市)
3. 主 催
第6回生体高分子結晶成長国際会議組織委員会
共同議長 芦田 玉一 (名古屋大・工)
小松 啓 (東北大・金属材料研)
4. 共 催 日本結晶学会、日本結晶成長学会
5. 協 賛 日本分子生物学会 他
6. スケジュール
アブストラクト締切 1995年 5月31日
登録締切 1995年 7月31日
プロシーディングス論文締切 1995年 8月31日
7. 参加費 (7月末まで) 一般 30,000円
学生・院生 15,000円
8. 関連行事
国際ワークショップ
日 時 1995年11月9日(木)~10日(金)

場 所 サンビア福山 (広島県福山市)

10日(金)第一部
オルガナイザー 松浦 良樹(大阪大・蛋白研)
主題 タンパク質結晶化
特別セッション 企業等によるデモンストレーション

11日(土)第二部
文部省科学研究費重点領域研究「動的蛋白結晶解析(略称)」

第8回公開シンポジウム
オルガナイザー 坂部 知平、江橋 節郎(重点領域総括班)
主題 放射光による蛋白質結晶構造のダイナミックスの研究

9. 問 合 先 〒724 東広島市鏡山1-4-4
広島大学生物生産学部 佐藤 清隆
Tel : (0824)24-7935 Fax : (0824)22-7062

○第5回アンチセンスシンポジウム

主 催 アンチセンス DNA/RNA 研究会
協 賛 日本分子生物学会 ほか
日 時 1995年11月6日(月)、7日(火)
場 所 工業技術院つくば研究センター 共用講堂
(〒305 つくば市東1-1-4)

問 合 先 第5回アンチセンスシンポジウム事務局
生命工学工業技術研究所(つくば市東1-1)
西川 論 Tel : (0298) 54-6085
Fax : (0298) 54-6095
多比良和誠 Tel : (0298) 54-6086

第2回アジア学術会議開催される

平成7年3月 日本学術会議広報委員会

今回の日本学術会議だよりでは、新規に学術研究総合調査費などを計上した平成7年度予算及び2月に開催された第2回アジア学術会議の概要についてお知らせします。

平成7年度日本学術会議予算

平成7年度政府予算(案)は、平成6年12月25日に閣議決定されましたが、日本学術会議関係の予算決定額は、11億2,339万4千円でした。その概要については次のとおりです。

【主な経費の概要】

(1) 学術研究総合調査

150百万円(平成7年度新規)

科学研究者の研究環境の改善と研究意欲の向上に關して、国内において意識調査及び実情調査を行う

とともに、外国においても実情調査を行い、結果を整理・分析し、日本学術会議において問題解決のための有効な方策について提言するもの。

(2) アジア学術会議の開催

220百万円(昨年度同額)

アジア学術会議は、アジア地域の各国を代表する科学者が一堂に会し、アジア地域において学術の果たす役割、学術交流の在り方等について討議することにより、相互理解を深め信頼関係を築くとともに、アジア地域ひいては世界の学術の発展に資するためを実施するもの。

平成7年度日本学術会議関係予算決定額表

(単位：千円)

事 項	予算決定額	備 考
日本学術会議の運営に必要な経費	1,123,394	対前年度比 93.5%
1 審 議 関 係 費	292,820	重要課題の特別検討, 移転準備委員会, IGBPシンポジウム, 公開講演会, 学術研究総合調査(新規)等
2 国際学術交流関係費	208,750	
(1) 国際分担金	69,505	
(2) 国際会議国内開催	66,211	7年度開催(神経生理学, 健康教育, ロボット, 憲法, 真空物理学, 獣医学の6会議) 8年度開催(理論・応用力学, 国際関係, 熱帯医学, 地域学会, 化学熱力学, 畜産学の6会議)
(3) 代表派遣	44,006	
(4) 二 国 間 交 流	6,823	
(5) アジア学術会議の開催	22,205	
3 会 員 推 薦 関 係 費	20,000	
4 その他事務費等	601,824	一般事務処理費等

第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～の概要について

日本学術会議は、アジア地域の各国科学者の代表を東京に招き、本年2月6日(月)から9日(木)までの4日間、三田共用会議所(東京都港区)において第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～を開催しました。

会議には、中国、インド、インドネシア、日本、大

韓民国、マレーシア、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナムの10か国の学術推進機関(アカデミー等)から推薦された人文・社会科学系及び自然科学系の科学者20名が出席し(日本からは伊藤正男日本学術会議会長及び利谷信義副会長が出席)、「アジアにおける学術交流のための方策」をメインテーマとして活発な討議を行いました。

初日の6日には、タイのチュラポン王女殿下、イン

ドのメノン博士による特別講演が行われたほか、高岡総理府次長(内閣総理大臣あいさつ代読)、藤田学士院院長をはじめ、国会議員、関係学協会の方々約200名をお迎えし、開会式及び歓迎レセプションが開催されました。

翌7日からは、それぞれの国籍や専門分野を超えて、アジア地域における学術の振興という共通の目的の下、熱心な討議が行われました。

その結果は、次項議長サマリーとして取りまとめられ、9日に無事閉会しました。

開催に当たり御支援、御協力いただきました方々に厚くお礼申し上げます。

議長サマリー (要約・仮訳)

第2回アジア学術会議～科学者フォーラム～

1995年2月6日～9日、東京

1. 第1回アジア学術会議(1993年11月、ACSC)の提案に基づき、第2回アジア学術会議が日本学術会議の主催により、アジアの10カ国から20名の科学者を集めて開催された。参加国として新たにベトナムが加わり、暖かく迎えられた。開会式において、タイ王国のチュラポン王女殿下及びインドのメノン博士による「アジアにおける学術交流のための方策」をテーマとした講演が行われた。また、村山総理大臣及び藤田学士院院長から祝辞が送られた。
2. 前回の議長サマリーの諸原則を議論の出発点とし、最近の科学の動向、21世紀に向けた世界の状況を踏まえ、アジアの科学者の継続的かつ効率的な学術交流のためのテーマを巡って総合的な検討がなされた。
3. 討議の中で、参加者は、経験に基づくユニークで示唆に富むアイデアを紹介し、幅広い観点から意見を交換した。要点は次のとおりである。
 - (1) 科学分野における協力は、人々の「生活の質」の向上だけでなく、アジア地域における「持続可能な発展」も目的としなければならない。
 - (2) 環境破壊、人口爆発等の地球的課題への取組みに際し、人文・社会学者と自然科学者が密接に協力していくことが重要である。
 - (3) アジア地域においてとりわけ重要な「持続可能な発展」を確保し、国際的な共同研究を促進するために、人材育成が重要である。このための国際協力は、平等互恵の原則の下に推進されなければならない。
 - (4) 化学、農学、医学等の特定の分野において現在行われている、また、将来行われるであろういくつかの試み(「アジア化学推進機構」、「アジア応用システム分析研究所」、「アジア伝統医学推進機構」、「自然災害の緩和のための科学協力」)が地球的課題を解決するための方策として紹介された。また、「共生」という概念に関して議論があった。
4. 参加者はACSCにおける中長期的な研究目標として「持続可能な発展」を取り上げた。このテーマは、さらなる検討を通じて、より扱いやすいサブテーマへと細分化される必要がある。また、21世紀を見据えつつ、アジアの知の伝統を生かし、人文・社会科学及び自然科学の融合を図るという、新たな観点から研究を行っていくことも将来の目標である。
5. これらの問題を議論する場として、ACSCのあり方は大きな関心を集めた。

将来の展開としてACSCを恒久的な組織にすることの可能性についても議論があった。参加者は別紙に示された基本理念、目的及び活動に概ね同意し、各自、持ち帰って関係方面とさらに議論することとなった。
6. ACSCの目標を達成するため、参加者は努力を続けることに同意し、少なくとも新組織が確立するまでの間は日本学術会議によりACSCが毎年開催されること、また、将来的には日本以外でも開催されることが望まれた。なお、日本学術会議が新組織の事務局となり、また、各国は各々の窓口となる機関を決めるべきであるとされた。

新組織について

1. 基本理念

- a. アジア共通の課題について審議、建議する組織
- b. アジアの知の伝統を踏まえ、人文・社会・自然科学の融合を図る組織
- c. アジア域内各国各地域に広く開かれ、他の国際学術団体とも連携を図る組織

2. 目的

「持続可能な発展」と「生活の質」の向上を目指して国際学術協力を推進するため、人文・社会・自然各分野の科学者が国籍や専門を超えて意見、情報の交換を行う場となること。

3. 活動

- a. 科学者に関する提案とそのフォローアップ
- b. 学術情報の収集・解析・普及
- c. アジアの学術界の連携強化
- d. 進行中の研究活動の評価・調整
- e. 総会の開催、シンポジウム・ワークショップの支援

日学双書の刊行案内

日本学術会議主催公開講演会の記録をもとに編集された次の日学双書が刊行されました。

日学双書No.22「尊厳死の在り方」

〔定価〕1,000円(消費税込み、送料240円)

※問い合わせ先

財団法人日本学術協力財団(〒106 港区西麻布3-24-2
交通安全教育センタービル内 ☎03-3403-9788)

日本分子生物学会 会報

年3回刊行（5月・11月・3月）

第51号（1995年5月）

発行：日本分子生物学会 庶務幹事

製作：学会センター関西

（財）日本学会事務センター 大阪事務所